

歴博 暮らしの植物苑だより

暮らしの植物苑観察会

第98回 5月26日(土) 13:30~15:30

「ハンカチノキとメタセコイヤー生きている化石」百原 新 (千葉大学園芸学部)

第99回 6月23日(土) 13:30~15:30

「シーボルトと暮らしの植物苑」辻 誠一郎 (東京大学大学院)

暮らしの植物苑ホームページ <http://rekihaku.ac.jp>

伊勢ナデシコを展示しています。

日本にはカワラナデシコやタカネナデシコが自生していますが、ナデシコは交雑しやすい植物で、中国からセキチクやトコナツなどが渡来し、その結果ナデシコどうしの交雑が繰り返しました。また人による交雑が行われ、その結果、宝永~享保期には長さ7.5cmもの大輪八重咲きのものがつくられたといわれています。その頃のナデシコにはイギリス咲き、剣咲き、シャグマ咲き、八重咲き、吹詰咲きなどの栽培が行われていましたが、そのなかで伊勢地方からはじまった単弁、細髭長の大輪咲きのものが称賛されるようになりました。それが伊勢ナデシコです。京都の宝鏡寺には門外不出の御所撫子といわれる花がもっと垂れるナデシコがあります。



アオハダ (モチノキ科モチノキ属)

山地に生える落葉高木で、雌雄異株です。小さい花で気がつかないくらいの雄花です。名は幹を爪でひっかくと、緑色の層が見られることから付けられたといわれます。材は白くて、寄木やろくろ細工に使います。



トウオガタマ (モクレン科オガタマノキ属)

苑内に甘いバナナの香りがたちこめています。この香りのもとはこの花からです。オガタマの園芸品種でかおりがとくに強い品種です。



コウホネ (スイレン科スイレン属)

鮮黄色の花を水面から出して咲いています、大型の多年生水草です。葉は水中葉と水上葉があり、水上葉は長卵形で基部は、ほこ形で全縁。水中葉は周りが波打っています。実は黄色い花は、5枚のがく片で、花弁は小さく中に多数あります。



シャクヤク (ボタン科ボタン属)

中国原産で日本には平安時代に渡来したと言われていませす。鑑賞用に庭によく植えられています。シャクヤクの原因種は一重咲きですが、八重咲き、冠咲き、バラ咲きなどいろいろな品種がつけられています。



アマドコロ (ユリ科アマドコロ属)

山地に生える多年草で、日本全土に分布します。白い筒状の花が鈴のように下向きについています。似ているものにナルコユリがあります、アマドコロは茎に稜があり、葉の下面は白っぽく、花が1~2個という違いがあります。



ハンカチノキ (オオギリ科ダビディア属)

ハンカチを振っているように見えるので、ハンカチノキといわれます。昨年はたくさんの花をつけたのですが、今年は1つしか確認できていません。ハンカチに見えるものは苞でその中に花があります。



オオタザクラ

今年は地植えをして、花を期待したのですが、実は1輪大きく咲きました。木曜からの強い風で花が落ちてしまいました。その花の写真です。

